

# 指導医に聴く

## 「私が研修医だった頃」

### 第8回

下関医療センター副院長/  
臨床研修プログラム責任者

加藤 彰 先生

と き 令和2年3月上旬

[聴き手：広報委員 石田 健]



**石田委員** 「指導医に聴く『私が研修医だった頃』」の第8回目として、下関医療センターの加藤 彰副院長へのインタビューを、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回は書面方式でさせていただきます。

まず、自己紹介からお願いします。

**加藤先生** 大阪は堺市の生まれです。山口大学医学部に入学するまで大阪で過ごし、大学を卒業したのは1991年（平成3年）でした。

当時、沖田 極 先生が主宰されていた第一内科（消化器内科）に入局し、1年目は山口大学病院で、2年目は下関市立中央病院（現・下関市立市民病院）で初期研修しました。1993年に山口大学大学院に入り、1997年に修了して、県立中央病院（現・県立総合医療センター）消化器内科で3年間修行しました。2000年4月からは、現在の下関医療センターに勤務しておりますから、ちょうど20年になります。専門は消化器内科学、中でも肝臓病を主として診療しています。2018年からは副院長となり、健診部門、感染対策室の総括をしておりますし、また、臨床研修においてはプログラム責任者として参画しています。

**石田委員** 次に、先生が山口大学第一内科に入局された経緯を教えてください。

**加藤先生** 学生時代、第2病理（高橋 学 教授）に実験の手伝いで出入りしていた際に、当時、講師であった佐々木功典 先生と出会いました。佐々木先生はその後、1988年に岩手医大へ病理学教室の教授となって赴任されました。1990年、翌年に山口大学卒業を控えた私に、岩手で一緒に仕事をしないかとお誘いがありました。病理にも興味がありましたが、それ以上に実地臨床に惹かれていた私は、沖田先生が主宰されていた第一内科（消化器内科）に入局するつもりであることを佐々木先生に伝えました。

結局、両教授のご厚意で第一内科に入局し、2年間の研修医生活の後、大学院に入って、岩手医大の病理に国内留学することになりました。

まさか、後に沖田・佐々木両教授が私が勤める下関医療センターの院長として赴任され、再会することになるとは夢にも思いませんでした。偶然とはいえ、運命を感じました。

**石田委員** まるでドラマのようなお話です。今の研修医にとって興味のあることと思いますが、先生の研修医時代の思い出を聞かせてください。

**加藤先生** 当時の大学病院の研修は、いわゆるストレート研修で、1年目は第一内科での検査、入院を指導医のもとに担当することがほとんどでし

た。当直のバイトで初めて気管内挿管を要する状況になり、必死で挿管できたものの、人工呼吸器の扱いがわからず、常勤医に泣きついた思い出があります。とにかく1年目は何もかも初めての体験で、病院にいる時間も長かったはずですが、あっという間に1年が過ぎたように思います。

初めての学会発表のため、防予フェリーで松山に行ったのも良い思い出です。

2年目の下関市立中央病院（現・下関市立市民病院）では、消化器内科中心の研修でしたが、内科医局全体で指導する体制でしたので、膠原病や脳梗塞といった疾患も経験できました。また、当直業務が激しく、多彩な救急症例を経験できました。

今振り返ってみても、初期研修の2年間での多くの経験が、3年目以後、臨床に向き合うにあたって大きな自信につながっていたように思います。

**石田委員** 続きまして下関医療センターの紹介をお願いします。

**加藤先生** JR下関駅から北に1kmと一番近くにある公的病院です。かつて下関厚生病院という名称で親しまれておりましたが、2014年、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）傘下57病院の一つとなりました。315床と比較的コンパクトな病院ではありますが、脳疾患をはじめ、救急医療に特に力を入れており、地域の皆さまの信頼を得ております。

**石田委員** 現在、下関医療センターには初期臨床研修医、後期研修医はそれぞれ何名居られますか。また、研修修了後の進路をお教えてください。

**加藤先生** 2020年度は、初期研修医4名、後期研修医（総合診療科）1名が在籍しています。最近の初期研修医の進路ですが、厚生労働省医系技官、大学脳外科入局、大学放射線科入局、当院後期研修など多岐にわたっています。

**石田委員** 次に、下関医療圏の救急医療について、

ご意見をお聞かせいただきたいと思います。下関市における救急医療を担う代表的病院として公的4病院があります。市民のこの強い期待に応じるために、どのようなシステムを構築されていますか。

**加藤先生** 下関医療圏は公的4病院が輪番制で救急当番日を担っており、救急車の受け入れについては比較的うまくいっていると思います。しかし、各病院とも医師確保が厳しくなり、常勤医不在の科が目立つようになってきました。今後は輪番制の維持の是非を含め、検討が必要です。個人的には、病院の再編・合併、集約が問題解決につながるのではないかと考えています。

**石田委員** 下関市内の公的4病院といわれている病院の、特に救急室は激務で有名です。当然の結果として、市民の先生方に対する信頼感は大なるものがあります。しかし、あまりにも激務であり、その結果として先生方が倒れられたり、開業されて常勤医が不足すると、一番困るのは患者さんです。激務の中でも、何とか趣味の時間を捻り出して、人生を楽しみ、心のリフレッシュをして、体調管理に十分注意してください。そして、できるだけ長期にわたり、元気で活躍してください。

先生の個人的なことを伺います。座右の銘はありますか。

**加藤先生** 「精力善用」「自他共栄」です。講道館を開設した柔道の祖である嘉納治五郎先生の言葉です。中高6年通った母校の校是でもあったので、私の体に染み付いています。「精力善用とは、心身の持つすべての力を最大限に生かして、社会のために善い方向に用いなさい。自他共栄とは、相手を敬い、感謝することで、信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしよう」という教えです。

これはすべての医療人にも通ずるものと思います。

**石田委員** 灘高校の校是を初めて知りました。全

医療人に通じるすばらしい言葉と思います。  
次に、趣味について教えていただけますか。

**加藤先生** バイクが好きで、大型二輪免許まで取って、かつては1500ccバイクを乗り回していましたが、子どもができてからは妻に止められ、乗るのをやめました。そのうち子どもたちが独立したら再度乗り始めようかと密かに考えています。

**石田委員** 最後に、研修医の先生方にメッセージをお願いします。

**加藤先生** 将来、何を専門にするにせよ、専門外領域の研修をできるのは、初期研修医の間しかな

いと思います。特に専門科を心に決めている人は、あえて異なる科の研修を積極的に選択してみてください。多様な考え方が身につき、先々の専門科での臨床と研究にきっと役に立つはずですよ。

**石田委員** このたびは大変貴重なお話を聞かせていただき、誠にありがとうございました。先生の今後ますますのご活躍に期待しています。

## 表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。  
アナログ写真、デジタル写真を問いません。  
ぜひ下記までご連絡ください。  
ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係  
E-mail : [kaihou@yamaguchi.med.or.jp](mailto:kaihou@yamaguchi.med.or.jp)

多くの先生方にご加入頂いております！

お申し込みは  
随時  
受付中です

医師賠償責任保険

所得補償保険

団体長期障害所得補償保険

傷害保険

詳しい内容は、下記お問合せ先にご照会ください

取扱代理店 **山福株式会社**  
TEL 083-922-2551  
引受保険会社 **損害保険ジャパン**  
**日本興亜株式会社**  
山口支店法人支社  
TEL 083-924-3005



損保ジャパン日本興亜